

第4章

特徴的な学校の取組紹介

児童の非認知能力や学習方略の数値が高かった学校を訪問し、学校で意識して取り組んでいることを聞き取りました。

子どもたちの学力の伸びにつながる非認知能力や学習方略を高めるために効果があると思われる取組を紹介します。



仲間と協働し、 安心して学びに向かうことのできる環境づくり ～鳥取市立世紀小学校～

1 とっとり学力・学習状況調査の状況

特に6年生で、学習方略、非認知能力の全ての項目において鳥取県平均を上回る状況にある。さらに、算数の学習意欲、アクティブ・ラーニングの数値も高い。

2 学校の特徴的な取組（効果があると思われる取組）

（1）安心して学びに向かえる環境づくり

①児童の内面に目を向けるとともに、学習での居場所をつくる

昨年度まで2年間、いじめ・不登校総合対策センターの「人間力・組織力による不登校改善事業」を受け、校内における体制づくりの推進とスクリーニングにより児童の表面化しにくい部分を洗い出していくこと、リレーションを大切にしつつルールを指導すること、学び合う学習を構成することにより学級での居場所づくりを大切にしている。その結果、多くの目で子どもを見守る姿勢がより浸透し、心地よい居場所としての学校づくりを推進していると考えられる。

②子どもの目線に近づいて、子どもにかかわる

先生方は、「ありがとう、助かったで」「ごめん、ちょっといいかな」など、温かな言葉かけや態度を意識して、子どもにかかわっている。教員が謙虚に子どもの目線に近づいてかかわることで、子どもは安心して心を開き、教員とのコミュニケーションが活性化されている。このように、安心できる環境下では、子どもたちが教員や友達とつながり、人的リソースの活用も図られていくと考えられる。

③取組み方を教える

期待に応えようとする子どもたちの姿がある一方で、取組み方が分からず頑張り切れないという状況があるため、こんな時はどうすればよいかなど「よい例」を示し、「きちんとした言葉、適切な対応の仕方」を教えることを心がけている。他者に適切な言動でかかわり、認められたり称賛されたりする経験が増えることで、自己有用感（自己効力感）も高まってきていると考えられる。

（2）自分を見つめ考えさせる

①できている子どもの姿を通してモデルを示す

「〇〇さんが、ごみをさっと捨てていたけど、気づいたかなあ？」など、具体的な姿を子どもたちに紹介している。そして、その行為に気づいていた子どもに対しても、「よく気づいてくれたね」と伝えるようにしている。自己有用感をもたせるとともに、具体的な場面において、自分はどの行動していただろうと考えるきっかけを与えることにもなる。このことは、他者理解にもつながっている。

②見つめ直す時間を与える

とっさに取ってしまった行動であっても、そのままにするのではなく「どうして～になったんだろう？」「どうしたらよかったのだろう？」と問いかけることで、子どもが自分を見つめる時間をつくっている。「～したからダメなんだ」という指導ではなく、「～だったから、今度はこうしていけ

ばいいんだ」と子ども自らに気づかせたいと考え、声かけをしている。見つめさせることにより、自分の感情をコントロールしたり、自分に合った対応の仕方を考えたりすることができ、より良い人間関係づくりを目指そうとする柔軟性や調整力を養っていると考えられる。

(3) 算数の授業における手立て

【5年生での取組】自由交流の設定

昨年度は、鳥取市の「学力向上推進事業～魅力ある算数・数学の授業実践推進校」として、算数の学力向上に努めた。また、「算数大好きプロジェクト」を意識した授業づくりに取り組む中で、特に対話的な学びを大事にしてきた。「困ったら友達に聞こう」「自由に動いて意見交流したりグループで話し合ったりして、考えを深めよう」と声かけをし、自由交流の時間を取り入れた。

【6年生になってからの取組】チャレンジ性のある適用題

自由交流などこれまでの学び方を継続しながら、適用題の時間によりレベルが高い、活用力を高める内容を出題している。子どもたちの中にある「少し難しいけど、考えたらできそうだ」というレベルの学習にチャレンジしたいという欲求に働きかけ、学習意欲を喚起している。

このように、友達との学び合いを通して算数科の楽しさを味わわせることにより、算数の学習への意欲を高めていると考えられる。



ほめ、認め、励ましながら、 学年で足並みをそろえた教育活動 ～鳥取市立岩倉小学校～

1 とっとり学力・学習状況調査の状況

特に6年生で、ほぼ全ての数値が県平均より高い状況にあり、その中でも「努力調整方略」「柔軟的方略」が特に高い。また、学級間の差も小さい。

2 学校の特徴的な取組（効果があると思われる取組）

（1）スモールステップと個の実態に応じた学習支援

①授業で勝負する

「学校生活の基本は授業であり、授業で勝負していく」という姿勢で日々の授業に取り組んでいる。学年会では、若手もベテランも互いに意見を出し合いながら一緒に教材研究をするなど、「授業をみんなで作る」「よい授業をする」という気持ちで指導にあたっている。

②「できた、わかった」を実感させる

児童の実態に応じた学習支援を行うために、スモールステップの学習と個に応じた家庭学習の内容、量を出すという取組を行っている。スモールステップの学習では、学習内容や指示を子どもたちが理解できているかどうかを一つ一つ確認しながら、学習活動を進めている。このことにより、子どもたち一人一人を見取り適切な手立てを講じることができ、子どもたちの「できた、わかった」を引き出すことができています。また、あきらめずにチャレンジし「みんなのできるようになる」という雰囲気づくりにも心がけ、「できた、わかった」という実感をもたせている。この取組が、「努力調整方略」、「柔軟的方略」、「学習意欲（算数）」の高さに繋がっていると思われる。

（2）学年で足並みをそろえる

①学年で取り組む意識をもたせる

学年会を、毎週月曜日の放課後に位置づけ、学年主任の教室で最低30分間、様々な教育活動についての協議を行っている。また、朝の会、帰りの会も学年合同で実施している。会では、児童が司会をし、各担任が代わる代わる話をしている。月行事については学年の廊下に大きなカレンダーを設置し、児童が各学年での見通しがもてるようにしている。

②指導力を学年団で養う

高学年では教科担任制を取り入れるとともに、互いの授業を参観することはもちろんのこと、他教師の授業に参加するような取組も日常的に行い、同僚から学ぶ機会を設けている。このようなシステムにより、学年で足並みのそろった取組が可能になっている。

このように、学年全体で共通実践することにより、学級間の差が小さくなっていると考えられる。



朝の会の様子

進行は各クラスの日直が行う。
朝の歌のあと、一日の動きを確認。
児童からは、委員会連絡、最近の生活で気を付けてほしいことなどを伝える。
～各学年のワークスペースにて～

(3)「ほめ、認め、励ます」

①下級生に認められることで自己有用感を高める

「ほめ、認め、励ます」という校長の教育方針のもと、日々の教育活動の中で子どもたち、特に高学年、中でも6年生をたくさんほめるようにしている。岩倉小学校の「よきモデル」として、高学年の姿を他学年の児童に示すことが、上級生への憧れや「自分たちもそうなりたい」という子どもたちの向上心を高めることにつながっている。さらに児童は、自分たちの行動をほめられることで、「自己有用感」が高まり、もっと頑張りたいという気持ち生まれる。

②互いに尊重し合う職員集団で子どもを育てる

この校長の教育方針は、職員間でも同じように実践されている。職員も互いに「ほめ、認め、励ます」ことでやる気生まれている。こうした日々の自尊感情の高まりが、互いに刺激し合い高まり合う職員集団を生み、互いに学び合う岩倉小学校の取組の基盤となっていると思われる。

「考え、判断し、実行する」機会の保障 ～鳥取市立青谷小学校～

1 とっとり学力・学習状況調査の状況

特に4年生で、学習方略、非認知能力が全て高い状況にある。特に、非認知能力の「勤勉性」、学習方略の「作業方略」が高い。

2 学校の特徴的な取組（効果があると思われる取組）

（1）よいモデルの紹介とよりよい姿の共有

①よいモデルを紹介する

ノートの整理の仕方、発表の内容や表現、友達への声のかけ方など学習中の姿はもちろん、掃除や休憩時間のやり取りの中でも、「子どもたちにまねさせたい、広げたい」と思われる行為を見つけたら、具体的に紹介するようにしている。具体的に紹介することにより、子どもたちがイメージしやすくなり、まねしやすくなっている。

②「どんな〇〇になりたいか」理想の姿を共有する

下学年のリーダーである3年時、上学年の仲間入りをした4年時。いずれの学年においても、「どのような姿が理想的なのか」「自分たちがどうすればそのようになれるのか」を考えさせている。目指す姿が明確にもてることで、子どもたち一人一人が努力し、教員が個に応じた支援を行うこともできている。また、子どもたちには、目指す姿に近づくために声をかけ合ったり協力したりしながら協働する姿が見られるようになった。

このような取組により、やるべきことはきちんとやることができるなどの「勤勉性」が養われていると考えられる。

（2）自分ですべきことを考え判断する機会の設定

①国語辞典はいつでも使えるように

「聞かなくても、自分で調べられるよ」と声をかけるだけで、子どもたちは自分で辞典を引き意味を調べていく。困ったときに友達を頼ることは大切だが、自分でできることには取り組ませるようにしている。

②「こんなときどうすればいいの」と投げかける

役割を自覚し責任をもって行動させるために、自分がどう行動しなければいけないのかを考えさせている。しっかりと考えさせたり、場合によっては話し合わせたりすることで、児童に達成感や充実感が高まっているようにうかがえる。話し合うことで、個々の頑張りだけでなく、学年として求められる行動について共通理解が深まり、集団で取り組む意識が高まっている。

これらの取組により、書いたり調べたりするなどの作業を取り入れた学び方である「作業方略」の育成がなされていると考えられる。

（3）卒業時に身につけておきたい力を念頭に置いた指導

先生方は、「自分の未来を切り拓いていく力をつけよう」と子どもたちに話し、「そのために必要

なことを、今からしっかりと身につけていこう」と声をかけている。子どもの姿を認め励まし、日々指導を重ねることにより、子どもたちの「勤勉性」を高めていると考えられる。


①話型表はいつも机上に

先生方は、どの子にも、発言の機会を作り自分の考えを表現させたいと考えている。安心して授業に参加できるように「話型表」を作成し、子どもたちが意識して話型を用い、話合いや考えを深められるような手立てを打ったり、反応例を示したりすることで、共感的な関係性の中での活動が保障されている。

②花丸の意欲づけにより、話合いの土俵に上げる

次時に学習する問題を予習課題として家庭で考えさせ、そこで気づいたことを基に授業を展開していくことに取り組んでいる。授業前にノートを確認し、花丸をつけて児童に返すことで、自信をもち発表してみようとする児童もある。花丸にはレベルがあり、子どもたちと意味を共有している。

「話型表」と「反応例」

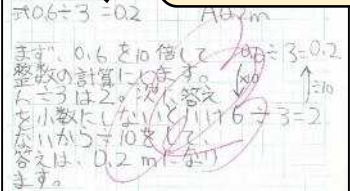
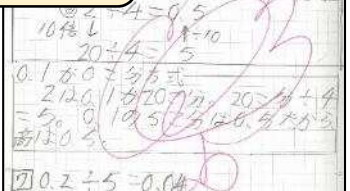
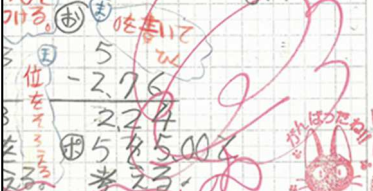
 <p>◎○○までは、分かります。 ◎ (発表した後に)ここからフォローしてください。 ◎○○さんの説明をまねて言います。 ◎○○さんと同じで、◎○○だと思います。 ◎○○さんの考えを聞いて、◎○○が分かりました。深まり ◎○○さんの考えを聞いて、◎○○が分からなかったの、くわしく教えてください。深まり</p>	<p>◎○○さんをフォローします。5.助詞 △○○さんは◎○○だと言いましたが、わたしは◎○○だと思います。さがる考え △○○さんの考えにつけて、◎○○です。おぼたしえ △○○さんの考えをまとめると、◎○○ということだと思います。まとめる</p>
---	---

こういう反のうを返せるといいね!

- そういうことか。
- すっきり!
- そういう考えもあるなあ。
- なるほど。
- すごい!
- たしかに!

レベル1
花丸のみ

レベル2 茎付き
レベル3 蝶が飛んでいる
(スタンプとの併用も効果的)

③自分の学習を計画する力を付ける

先生方は、「未来を切り拓くには、宿題を確実にすることも大事」と話し、月末に宿題の提出率を一人一人に示し、どの程度頑張れたか自覚させる機会を設けている。学力や家庭での学習環境の違いに配慮するうえで、個に応じた対応は欠かせないが、子どもたちは、100%を目指して取り組み始めている。さらに、自分の苦手な学習内容を自覚させ、「私のがんばることはコレ」と決めて、「学習計画表」を作成する取組も始めている。このことは、計画的に学習に取り組むなどの「プランニング方略」を育成することにつながると考えられる。

児童の「分からない」を大切にして取り組んだ アクティブ・ラーニング ～米子市立福生東小学校～

1 とっとり学力・学習状況調査の状況

6年生は、アクティブ・ラーニングの実施、学習方略、非認知能力の全ての項目で県平均を上回っている。特に、学習方略の「認知的方略」「努力調整方略」の項目は、県平均を顕著に上回っている。

2 特徴的な取組（効果があると考えられる取組）

（1）児童の「分からない」に目を向けた授業づくり

3年間、「主体的・対話的で深い学びの実現による学力向上事業」を通して、学力課題とその解決のための方策を明確にして授業改善に取り組んできた。授業のゴールをイメージする中で、児童の「分からない」を予測して手立てを考えたり、実際にそれを授業の中で見取って指導したりしている。また、児童が「分からない」と素直に言える雰囲気づくりも大切にしている。分からない児童が分



グループでの説明

かるようになることが重要であるという共通認識を教師が持つと同時に、児童にも意識させている。このような取組が、苦手意識をコントロールして学習に向かう努力調整方略や、より自分の理解度を深めようとする認知的方略の数値に関連しているものと考えられる。

算数の研究で、対話によって自分の考え方を再構築する過程を大切にしてきたが、それを他教科にも生かしており、ペアやグループでも男女関係なく自然に対話ができるようになった。

（2）児童の主体性を育てる取組

学級活動や学校行事等の特別活動で、児童が自ら考え、粘り強くやり抜くことの大切さや達成感を味わえるような取組を行っている。

運動会の応援合戦では、声出しや密になることが制限される中、児童が話し合い、動きの大きさや美しさで魅せようと自分たちで練習を行った。5・6年生が連携することで、特に6年生において、学校全体を動かす意欲や態度が養われたと思われる。

児童会では、「笑顔・思いやり・成長」という目標項目をチャートにして、短いスパンで達成率を振り返っている。その振り返りに対する取組として、朝、6年生が1年生を教室ま



応援合戦の話し合い



児童会による振り返りチャート

で迎えに行き、玄関先で行うあいさつ運動をペアで行うというアイデアが児童から提案され、実施された。

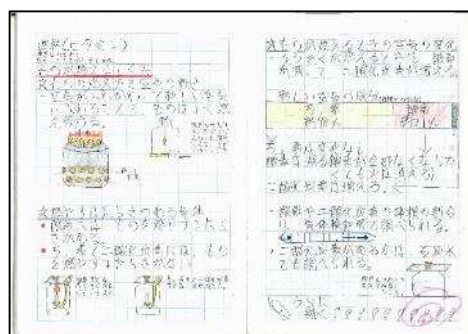
学級活動では、月に1回学級目標を振り返り、達成度を測りながら、自分たちで学習や生活を向上させようという意欲や態度を育てている。

学級においては、「振り返りジャーナル」(B5サイズのノート)を机の横にかけておいて、児童ががんばったことや悩んでいること等を下校までに書き込むよう取り組んでいる。担任は、個別に返事やアドバイスを返す中で、児童のやる気や自尊感情を引き出すよう心がけている。中には休憩時間を使って1ページ近く書き込む児童もあり、担任との信頼関係が築けていることが伺える。

家庭学習では、福生中学校区全体で、自主学習ノートの活用事例を情報交換しながら、自主的に家庭学習に取り組めるように支援している。このような取組が、プランニング方略の数値にも影響していると考えられる。



あいさつ運動



自学ノート

学級活動を通して体験するPDCA サイクル ～米子市立加茂小学校～

1 とっとり学力・学習状況調査の状況

5年生は、アクティブ・ラーニングの実施・学習方略・非認知能力の項目が全体的に県平均よりも数値が高い状況にある。特に、学習方略の「プランニング方略」「努力調整方略」の項目は、県平均を顕著に上回っている。

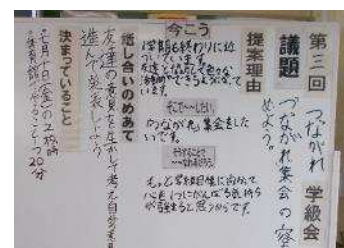
2 特徴的な取組（効果があると考えられる取組）

（1）学級活動によるPDCAサイクル

校内研究による共通理解をもとに学級活動を実践し、児童に多くのPDCAサイクルを体験させている。例えば、学級目標をPDCAサイクルの指標として活用し、達成度を折れ線グラフにして月ごとに振り返ったり、年間を通した教室掲示で意識を喚起したりしている。また、活動を振り返るだけではなく、めあて自体を実現可能なものに変更する話し合いを行うことで、プランニング力や努力調整の力を養うことができていると考えられる。



教室掲示されている
学級目標達成度



学級会での板書

（2）児童に学習の見通しをもたせる取組

児童が1時間の授業の見通しを持てるような「めあて」を立てるとともに、「授業の流れ」も提示するようにしている。また、テストを実施するときには、「〇月〇日にテストをするよ」と予告をすることで、児童が自発的に学習に取り組めるようにしている。

（3）自分の力でやり抜くための自治的な取組

学校全体で児童ファーストを心がけている。教員が指示を与える生徒指導ではなく、自己解決を図る指導を全教職員で共有し、実践している。

新型コロナウイルス感染症対策で内容を変えた行事でも、児童がやりたいことを自分で見つけ、自分で取り組めるような活動を設定した。例えば、音楽発表会でお世話になった音楽担当教員へお礼を考えたり、大山登山に行く他学年へのお守りを作成したりした。自分たちの力で誰かが喜ぶことを企画することで、自己有用感も高まり、さらなる意欲につながったと考えられる。



児童が自主的に制作した
大山登山用のお守り

また、大縄跳び等のチーム力を高めることを目的とする活動については、結果や見栄えは気にせず、教師がなるべく手を出さないように心がけるとともに、「努力はうそをつかない」「ピンチはチャンス」などと過程を価値づける言葉がけを行っている。陸上競技大会でも、児童が自ら円陣を組み、作戦を立てる姿が見られた。



大縄跳びの練習風景

一方で、清掃指導にも力を入れており、教師も一緒になってトイレ掃除を行ったり、「雑巾はきれいに干す」「ロッカーから出ている鞆のひもはしまおう」等、整理整頓を徹底したりすることで、自律的な力も醸成されていると考えられる。

学習指導においても、ペアやグループ学習を行ったあとに、最終的には自分の力でやり抜くことができるよう、個の活動に戻したり、振り返りを充実させたりしている。



プール掃除の様子

毎日の縦割り活動で育てる「愛労精神」 ～米子市立大篠津小学校～

1 とっとり学力・学習状況調査の状況

4年生は、アクティブ・ラーニングの実施、学習方略、非認知能力の全ての項目で県平均を上回っている。特に、学習方略の「プランニング方略」「勤勉性」の項目は、県平均を顕著に上回っている。

2 特徴的な取組（効果があると考えられる取組）

（1）活発な縦割り活動

「愛労精神」を校訓に掲げ、上級生の姿をよい手本として、「自分たちもよい上級生になろう」とする校風・伝統が引き継がれている。全校が約90人の小規模校であることを生かして、毎日、縦割り活動が行われている。例えば、教室も含めた全ての掃除場所で異学年同士がグループになって清掃活動を行っており、雑巾の使い方やゴミ捨ての仕方を上級生が教える姿が見られる。また、朝の会や授業の様子を見合ったり、休憩時には異学年同士でサッカーをしたりする姿も見られる。上学年の学習の様子を見ることによって、下学年は目標とする授業態度を学び、上級生は下級生のお手本として授業を頑張ろうとする好循環が生まれている。



異学年による清掃風景



下学年が上学年を授業参観する様子

芋汁をふるまう「あったか鍋集会」では、お世話になったたくさんのゲストティーチャーや保育園の園児のために、あえて中学年を中心に会を企画する場を設定している。材料のサツマイモは全校で栽培し、ダイコンや人参などは特別支援学級が栽培する。材料を切るのは全校で取り組み、包丁の使い方は高学年が教えている。

子ども同士の関わり合いの中で培った成功体験を、児童自らが振り返る場を設定したり、教師が肯定的に価値づけたりすることで、自主性や勤勉性が育まれていると考えられる。



あったか鍋集会でゲストを迎える様子

（2）見通しを持ち、安心して学びに向かうことのできる環境づくり

米子市小学校教育研究大会の際に研究主題として掲げた「主体的に学び合う授業づくり、学級づくり」をもとに、様々な取組を実践している。児童の発達段階に応じて作成した単元計画表

「学びの地図」を教室掲示や振り返りで活用したり、1時間の見通しを持たせる「学習時計」を各単元・各時間において活用したりすることで、児童にプランニングの力が付いているものと思われる。



黒板に掲げられた「学習時計」

三角形を知りつくそう	
時間	やること
1	三角形をいろいろな種類に分けよう。
2	三角形をかいてみよう
3	円のせいしつを利用して・・・
4	() や () の作り方
5	2つの三角形の角の大きさについて。
6	三角じょうぎの角の大きさ
7	三角のしきつめると・・・
8	学びのまとめ

教室掲示された単元計画



まなびの地図 (円と正多角形)		
日付	内容	まとめ
1/13	正多角形について	120° 60°
1/14	正多角形をかこう	中心角を分度器ではかて分けていて正多角形をかこうができる。360÷6=60
1/15	正多角形の秘密	正六角形の中に正三角形が6こある
1/16	円と直線の関係	円の周りを円周という 円周は直線の長さより長い

児童が書き込んだ「学びの地図」

また、担任が児童の言動をなるべく否定しないように心がけており、児童は「先生は何を話しても受け止めてくれる」という安心感を持って過ごしている。このことは、クラスの中でマイナス発言が少ないことにもつながっていると考えられる。発言が苦手な児童に対しては、教師が意図的に指名し、簡単な内容をあえて言わせるなどの工夫を行って、声を出させる機会を設けるよう心がけている。

第5章

学習指導のポイント

実際に出題された調査問題をもとに、児童の解答状況や、学習指導のポイントをまとめました。今後の授業改善、年間指導計画や学習指導案の作成、校内研修の資料などとしてご活用ください。



(1) 国語

小学校 第4学年 国語

1 調査問題 14 (1) 【問題の学力のレベル：7-A】

14

田中さんは、「昔の台所道具」というテーマで調べたことを発表します。次は、【田中さんの発表原稿】と、【発表中に使う資料】です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【田中さんの発表原稿】

わたしは、博物館で「昔の台所」という展示を見ました。ご飯をたく「はがま」や火で加熱調理するための「かまど」、たき上がったご飯の保温や保存をする「おひつ」など、見たこともない道具がたくさんありました。

魚を焼く「七輪」、かつおぶしをけずる「かつおぶしけずりき」は、おじいちゃんの家で見ることがありました。展示を見た中で今回は、仕組みに興味を持った「七輪」について調べたことを発表します。

七輪は、資料の図のように、土でできていて筒のような形をしています。中は空どうで、そこに火をつけた炭を入れ、いちばん上にあみを置いて、魚などをのせて焼きます。くわしい使い方を順に説明します。

〜 原稿は続く 〜

【発表中に使う資料】

《七輪の使い方》

- 1 安全な場所に七輪を置く。
- 2 火がついた炭を七輪の空どうの部分に入れる。
- 3 炭の中心が赤く表面が少し白っぽくなったら、七輪の上にあみを置く。
- 4 使い終わったら、炭をしっかりと消火する。

※室内ではかん気をする。



(1) 田中さんは発表でどのような工夫をしようとしていますか。次の1〜4の中からふさわしいものを二つえらびましょう。

- 1 図などの資料を用いて、くわしく伝えたい道具について説明しようとしている。
- 2 調べたことから話題を広げ、台所以外で使う道具について話をしようとしている。
- 3 聞き手に問いかけて、道具の使い方についての話が伝わっているか確かめようとしている。
- 4 自分の体験したことからは話し始め、昔の道具について聞き手の関心をひこうとしている。

2 調査問題の概要・出題の趣旨

本問題は、発表原稿の工夫を説明したものとして適切なものを選択するものである。示された発表原稿と資料を読み取り、相手に伝わる発表にするために、どのような工夫や意図が盛り込まれているのかを見出せるかが問われている。普段の授業から、聞き手や目的、内容に合わせて、どんな工夫を盛り込んでいくかを考えていくことが求められる。

3 誤答分析

解答類型	1	2	3	4	9	0
回答率	23.9%	38.1%	14.5%	—	12.4%	11.1%

- ・ 類型1 → 選択肢1と4を解答している
- ・ 類型2 → 選択肢1と4以外の選択肢を解答している
- ・ 類型3 → 選択肢4と1以外の選択肢を解答している
- ・ 類型9 → 上記以外の解答
- ・ 類型0 → 無解答

類型1から類型3までを解答している児童が約77%であることから、3/4の児童は、発表原稿の中から1つ以上の工夫に気付いている。しかし、正答した児童は23.9%と少なく、選択肢1の図を用いて説明する工夫に気付いた児童が62%であるのに対して、選択肢4の話す順序の工夫に気づいた児童は約38%である。伝え方の工夫には様々な手法があることを理解できていなかったり、その工夫が聞き手にどのような効果があるかを理解していなかったりする児童が多いと思われる。

4 指導上のポイント

伝え方の工夫について考えさせよう！

聞き手に伝わる発表にするためには、相手や目的を意識しながら、様々な工夫を考えて実践することが大切です。学習のどの場面で、どんな工夫を考えていくのか、いくつかポイントを例示します。なお、ここでは、学習指導要領〔第3学年及び第4学年〕の「A 話すこと・聞くこと」について、以下の指導項目を踏まえた例を紹介しています。

「イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。」

「ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。」

伝え方の工夫について考える授業場面(例)

(例)「わたしたちの学校の自慢を地域の方に紹介しよう」【全8時間】

発表会に向けて、児童が準備を進めていきます。よりよい発表にしていけるために、単元のどの時間に、どんな工夫について考えることができそうか、例を紹介します。

◎発表の組み立てを考え、発表原稿を作る。【第3～4時】 ☞「構成の工夫」について考える

- ・教科書等の例文を使って、話の構成等(組み立て方)について、内容面の工夫を見付ける。
- ・聞き手の立場になって、自分はどんな工夫ができそうかを考える。

話の中心が分かるように、一番自慢したいことを「はじめ」の中で話そうと思います。



理由がはっきりと伝わるように、幾つ理由があるかを示したり、理由を示す言葉を使って書いたりしようと思います。

様子が分かるように、写真を見せながら話そうと思います。



様子が思い浮かぶように、みんなも体験したことがある話を、理由の中に入れようと思います。

◎発表の練習をして、修正を行う。【第5～6時】 ☞「話し方の工夫」について考える

- ・聞き手の立場を意識して、話し方の工夫を考える。
- ・練習の中で気づいたことがあれば、発表原稿に書き加えたり、書きかえたりする。



ここが一番伝えたいところだから、ゆっくり、はっきり話そう。



写真に指を差しながら伝えると、見てほしい部分をもっと伝わるかな？



ここで資料を見てもらう時間を少しとった方がよさそうだな。



Point

何についての工夫を考えるのか明確にしよう！

一言で「工夫」と言っても、伝えたい内容をよりよくするための工夫、話し方や提示の仕方をよりよくするための工夫等が考えられます。視点を明確にして、何のために・どの部分で・どんな工夫を行うとよいのかを児童が考えたり、選択したりしていくことが大切です。

また、考えた工夫を発表の中で意図的に活用していくことがとても大切です。活用してみてもう良かったかを振り返り、他教科や実生活の中での活用にも繋げていけるとよいです。

1 調査問題 14 (3) 【問題の学力のレベル：8-A】

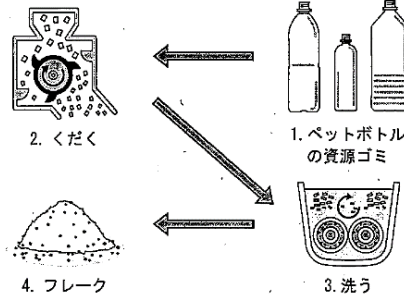
(3) 小林さんたちはリサイクル工場に見学に行き、工場の山田さんに質問しています。次の【工場見学での質問の様子】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【工場見学での質問の様子】

小林さん：工場ではペットボトルをどのように処理しているのですか。

山田さん：この工場では、ペットボトルを「フレーク」と呼ばれる小さなかけら状に加工しています。具体的には、ペットボトルをくだき、洗い、熱で乾燥させて、小さなかけら状にします。フレークは、別の製品に再生するための材料で、次の工程を経て、その後、新しい製品になるのです。

小林さん：



問い 【工場見学での質問の様子】で小林さんは、リサイクル工場で山田さんに質問し、答えを聞いて、
 あなたなら、フレークについてさらにどんな質問をしたいと思いますか。質問したいこととその理由を、あとの【注意】をよく読んで書きましょう。

【注意】

- 1 二段落で、五行以上、七行以内で書くこと。
- 2 一段落目には、フレークについて質問を書くこと。
- 3 二段落目には、その質問をしたい理由を書くこと。

* 解答は、かならず解答用紙に書きましょう。次のページの原稿用紙は使っても使わなくてもかまいません。

2 調査問題の概要・出題の趣旨

本問題は、インタビューで聞き取った内容に対して、理由を明らかにしながら、さらに加える質問を考える問題である。聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問することができるかどうかをみる。

3 誤答分析

解答類型	1	2	3	4	9	0
回答率	<u>17.0%</u>	7.8%	1.1%	7.1%	31.2%	35.9%

<正答の条件>

- 条件① フレークについて、さらに質問したいことを書いている。
- 条件② 条件①について、その質問をしたい理由を適切に書いている。
- 条件③ 二段落構成で書いている。
- 条件④ 五行以上、七行以内で書いている。
- 条件⑤ 一段落目に質問したいことを、二段落目に質問したい理由を書いている。

類型1 → 条件①～⑤を満たして解答しているもの（正答）

類型2 → 条件①、②、④を満たし、③を満たさず解答しているもの

類型3 → 類型2以外で、条件①、②を満たしているが、③、④、⑤のうち一つ以上を満たさず解答しているもの

類型4 → 条件①、③、④を満たし、②を満たさず解答しているもの

類型9 → 上記以外の解答

類型0 → 無解答

正答率が17%と低いことから、条件に合わせて適切な質問をすることは児童にとって大変難しい課題であり、どのように質問すればよいかわからなかった児童が多かった。

また、無解答（類型0）が35.9%あることから、山田さんの話の内容（フレーク）を十分に理解していないことや、聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問することができないことが考えられる。

4 指導上のポイント

質問する力を付けよう！

質問を例示し、質問に様々な意図があることを理解するとともに、その効果を実感することで、様々な場面において質問を生かせる力を養う。

インタビューのモデルを基に質問の意図について話し合う(例)

【工場見学での質問の様子】

小林さん 工場ではペットボトルをどのように処理しているのですか。

山田さん この工場では、ペットボトルを「フレーク」と呼ばれる小さなかけら状に加工しています。具体的には、ペットボトルをくだき、洗い、熱で乾燥させて、小さなかけら状にします。フレークは、別の製品に再生するための材料で、次の工程を経て、その後、新しい製品になるのです。

【この後の質問の例】

質問① 「フレーク」は別の製品になるということですから、再びペットボトルで使われることはないのですね。

質問② 「フレーク」は小さなかけら状に加工されるということですが、どのくらいの大きさになるのですか。

質問③ 「フレーク」は、その後どのような製品になるのですか。



質問①～③は、それぞれどのような質問になっていますか。

質問①は、山田さんの説明を、**言葉を変えて確認**しています。

質問②は、山田さんの説明を**より詳しく**聞こうとしています。

質問③は、山田さんの説明では**わからない内容**を聞こうとしています。

同じ話の内容に対しての質問だけど、**様々な意図**があることがわかりました。



工場見学の目的を意識して、リサイクルに関連した内容を聞き取ることができたらいいですね。

● 「質問の意図」とは…

【話の内容を確認する】

- ・自分の理解が正しいかどうかを確認する。
- ・わからない言葉の意味を確認する。

【相手から考えを引き出す】

- ・相手が繰り返した言葉を使い、詳しく聞く。
- ・相手が答えやすいように言葉をかえて聞く。



Point

実際の生活場面で効果を実感できるようにしよう！

話し手の意図を捉えながら聞き、話し手の発言を受けて質問する姿などを具体的に示し、それを実際の生活場面において使う機会を持つことが大切です。そうした機会を通して、話し手と聞き手とが補完し合うことでより効果的な情報の伝達が実現するということを、児童が実感できるようにします。

小学校 第6学年 国語

1 調査問題14(3)

【問題の学力のレベル：8-A】

(1)

明日から
¹近所の
²神社で
³お祭りが
⁴始まる。

3

次の文の
 線部の言葉がくわしくしている言葉を、
 1～4の中からそれぞれ一つ選びましょう。

2 調査問題の概要・出題の趣旨

本問題は、修飾・被修飾の関係が理解できているかをみる問題である。

3 誤答分析

解答類型	1	2	3	4	9	0
回答率	10.6%	12.7%	47.1%	29.0%	0.3%	0.5%

正答である4「始まる」を選択できた児童は29%と少なく、3「お祭りが」を選択した児童が約半数である。修飾語について、体言を修飾する修飾語は捉えやすいが、用言を修飾する修飾語は捉えにくいと考えられる。また、修飾語が多くある文に対し、修飾と被修飾の関係を理解していない児童が多いと考えられる。

4 指導上のポイント

修飾と被修飾との関係を理解させよう！

語句の働きを理解させ、それらが文の中でどこに係っているのかを繰り返し指導することで、定着を図ることができます。

修飾語の働きについて理解させる(例)

【中学年】

1・2年生では、主語と述語が照応することが大切であることを学んでいる。これを踏まえ、主語と述語からなる文に、修飾語を加えて文を詳しくすることで、修飾語の働きに気づかせる。

例) わたしは 校庭で サッカーを 練習した。

〔主語〕 (どこで) (なにを) 〔述語〕

文を詳しくすることに加えて、どの言葉を詳しくしているかにも注目させる。

例) (ア) 雨が (イ) 降っている。

〔主語〕 〔述語〕

●短い文から取り組ませ、徐々に修飾語と被修飾語が離れた文や、修飾語が2つ以上ある文などにも取り組ませる。修飾語の働きを考えさせながら、矢印などを使って、どこの言葉に係っているのかを考えさせる。

(ア)に「大つぶの」や「きり(霧)のような」などを入れると、どんな雨なのかが思い浮かぶ。



(イ)に「はげしく」や「しとしと」などを入れると、降り方が変わるね。



修飾語・被修飾語の関係を定着させる(例)

文節で切った文を示し、まずは主語と述語を確認する。その後、修飾語・被修飾語に注目させ、働きを確認する。

例) 昨日 ぼくは 庭に 小さな 木を 植えた。

①主語と述語だけの文にする。

②被修飾語を詳しくしている言葉を探させる。

③修飾語が詳しくしている言葉を探させる。

●同じ文を、単語の語順を変えることで、文の中での語句の係り方や、主語・述語、修飾語・被修飾語の働きを確認する。



主語と述語はどれですか。

「ぼくは」「植えた」です。



どんな「木」ですか。

「小さな」木です。



「庭に」はどの言葉を詳しくしていますか。

「植えた」です。



Point

学習活動の中で、「修飾語」という言葉を意識的に使い、修飾語がどの言葉に係るか(被修飾語)を確認することが大切です。それらの関係を正しく理解する力を身に付けることで、今後、中学校での文成分の学習や連文節の学習へと結びついていきます。

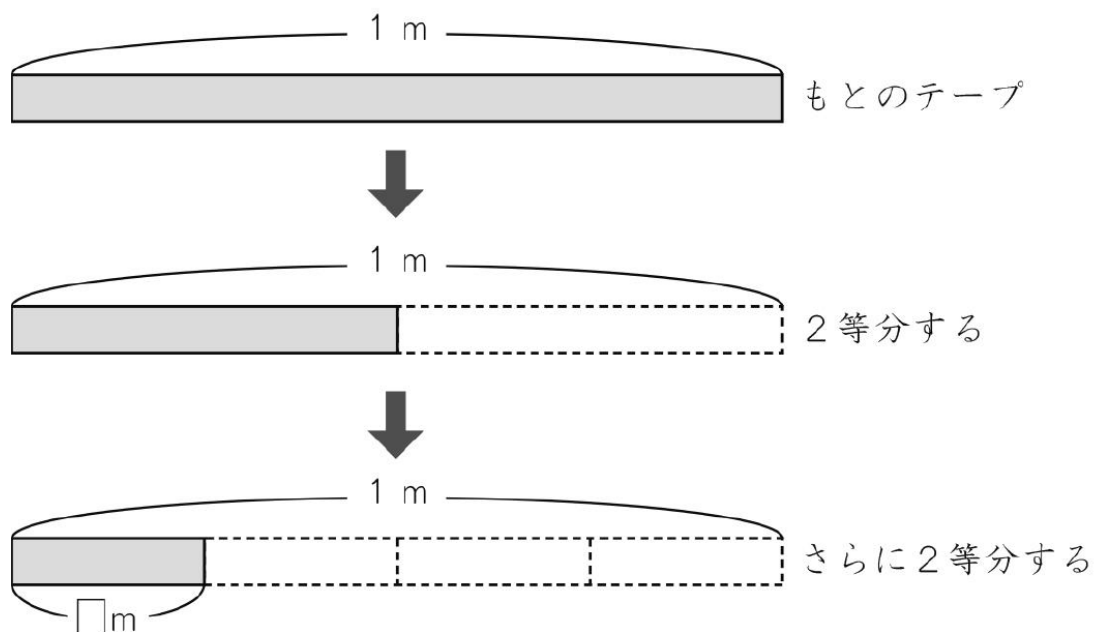
(2) 算数

小学校 第4学年 算数

1 調査問題3(3) 【問題の学力のレベル：7-B】

3 次の問題に答えましょう。

(3) 次の図のように、1 mのテープを2等分します。それをさらに、2等分します。分けた1こ分の長さは、何mですか。答えを書きましょう。



2 調査問題の概要・出題の趣旨

- 概要…テープを折ったときの長さを、分数を使って表す
- 趣旨…等分してできる分数の大きさを考えることができる

3 誤答分析

解答類型	1	9	0
回答率	<u>25.6%</u>	65.4%	9.0%

類型1 1/4 と解答しているもの（正答）

類型9 上記以外の解答

類型0 無解答

※類型9（65.4%）のうち、21%が「25」と解答しており、「等分」という言葉から分数が想起できなかったと推察される。つまり、分数の意味と表し方についての理解が不十分であると考えられる。

4 指導上のポイント

具体物を実際に操作しながら、もとの大きさや何等分したかに着目しよう！

具体物（テープなど）を実際に操作し、等分した大きさをつくる活動を行いながら学習を進め、分数の意味や表し方について実感を伴って理解できるようにします。

1mを等分した1こ分の長さは何mといえよのか、実際に操作しながら説明し合う。

問題のようにテープを操作してみよう！



テープを2等分に折って、さらに2等分に折るのだね。

その長さは何mと表せるかな？



$\frac{1}{2}$ mです。

$\frac{1}{4}$ mです。

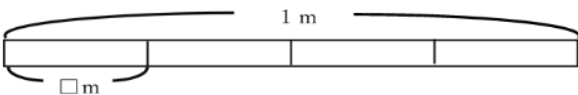


どうしてそう考えたのか、説明してみよう。



2等分しているから、 $\frac{1}{2}$ mだよ。

もとの長さは1mだから、テープを広げてみたよ。



1mの4等分になっているね。



1m（もと）の4等分の長さだから、 $\frac{1}{4}$ mです。

そうか！もとの長さの何等分になっているかが大切なんだ。

分数の大きさに着目した指導

$\frac{1}{4}$ mと $\frac{1}{6}$ mは、どちらが長いでしょう？



もとの〇等分を意識しながら実際にテープを操作することで、分数の意味についての定着を図るとともに、分数の量感を養うようにする。

活用力を伸ばすための指導

問題にあるテープを、さらに2等分した長さは何mですか？

もとの問題の数値や条件が変わっても、同じように考えれば問題が解ける、という算数のよさに気が付けるようにする。また、適用題として扱うことも考えられる。

Point

具体的な操作活動を通して量感を伴いながら、「1mの〇等分だから $\frac{1}{〇}$ mです。」のように、**もとの大きさ**と**何等分になっているか**に着目して説明できるようにすることが大切です。

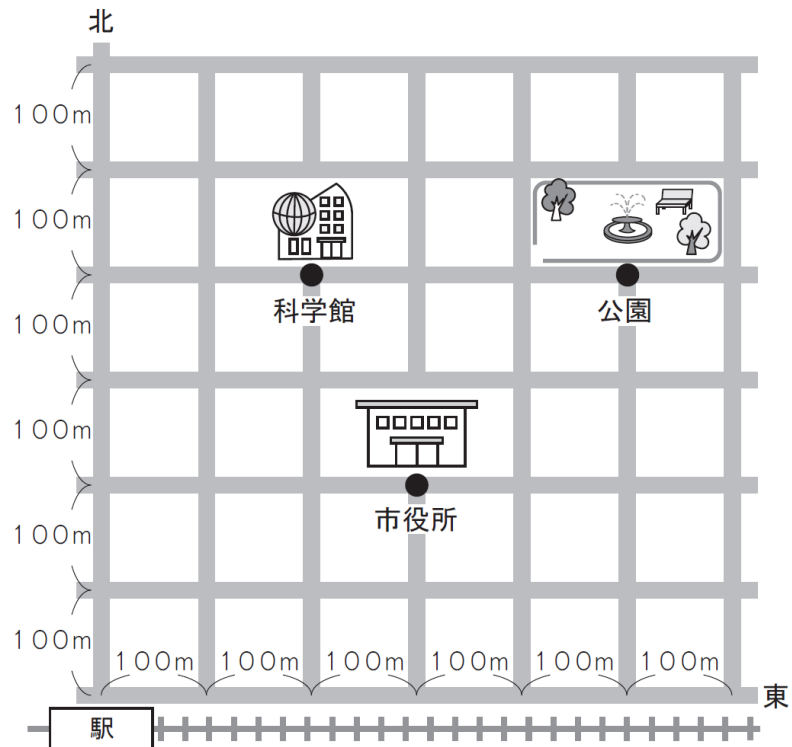
小学校 第5学年 算数

1 調査問題 6 (1) 【問題の学力のレベル：6-C】

6 次の問題に答えましょう。

(1) 次の図は、ある町の絵地図です。

駅前をもとにすると、市役所は(東300m, 北200m)と表すことができます。同じように駅前をもとにすると、科学館はどのように表すことができますか。答えを書きましょう。



2 調査問題の概要・出題の趣旨

- 概要…平面上にある点の位置を示す
- 趣旨…平面上の点の位置を表すことができる

3 誤答分析

解答類型	1	9	0
回答率	74.9%	22.9%	2.2%

類型1 (東) 200 (m)、(北) 400 (m) と解答しているもの

類型9 上記以外の解答

類型0 無解答

※類型9 (22.9%) のうち、17%が「東400m、北200m」と解答しており、基準となる位置から左右、上下の2つの方向についての理解が不十分であると考えられる。

4 指導上のポイント

基準点を定め、縦、横の2方向からどれくらいの距離にあるかに着目しよう！

平面の位置の表し方を考えるときには、「**基準となる位置**」をもとに、**どちらの方向へどれだけ進むのか**」に着目できるようにします。

基準点をもとに位置の表し方を考えていく過程を図や言葉で説明し合う。



(東200m, 北400m) で表すことができます。

これは、科学館の位置を表すことができているのかな？



どうして、200mとか400mとかがわかるの？東や北とか、どこを見ればわかるの？



問題文に、「**駅前をもとにする**と」と書いてあるから、駅前をスタート地点と考えたらいいよ。

図の縦方向が「北」。横方向が「東」を表していることが、図を見るとわかるよ。



なるほど。
どこをもとにするか、
どちらへ進むか、
どれだけ進むか、
を考えればいいんだね。
つまり、駅前をスタート
として考えると、東へ
200m、北へ400m
進んだところが科学館に
なるね。



基準となる位置を意識するための指導

市役所をもとにすると公園はどのように表すことができるでしょう。



問題文と違う場所を基準点としたときの表し方を考えることで、問題の図のどこに目を向けてマスを数えていけばよいか考えるようにする。

科学館を(東400m、北200m)で表すことができる場所に私の家があります。私の家はどこでしょう。



問題文とは逆に、座標を示してどこが基準点となるかを考える活動を行うことで、もとにする位置に意識が向くようにする。

Point

平面の位置を二つの方向から表す方法を正しく表現できたかどうかを見取るだけでなく、その答えに至る過程を理解できるように、教師から問いかけたり児童同士で説明し合ったりする活動を行うようにします。その際、平面の位置の表し方を考えるときに大切な「**基準となる位置**」をもとに、**どちらの方向へどれだけ進むのか**」を説明できるようにすることが大切です。

小学校 第6学年 算数

1 調査問題2(1) 【問題の学力のレベル：6-A】

2 次の問題に答えましょう。

(1) 9と15の公約数を、次の㉠から㉤の中からすべて選びましょう。

㉠ 1 ㉡ 3 ㉢ 5 ㉣ 9 ㉤ 15

2 調査問題の概要・出題の趣旨

- 概要…公約数を求める
- 趣旨…公約数の意味について理解している

3 誤答分析

解答類型	1	2	3	9	0
回答率	67.0%	1.4%	7.9%	23.3%	0.4%

類型1 ア、イと解答しているもの

類型2 アのみ解答しているもの

類型3 イのみ解答しているもの

類型9 上記以外の解答

類型0 無解答

※約数の意味は把握できていると考えられるが、2数に共通する約数をすべて正しく見出す手順についての定着が不十分であると考えられる。

4 指導上のポイント

簡潔にすべて正しく公約数を見つけるために、2つの整数の大きさや特徴に着目しよう！

任意の数を選んで公約数を見つけ、すべての公約数を見つけることができているかを確認し合う活動を通して、すべて正しく公約数を見いだす手順についてより確実に理解できるようにします。

任意に選んだ2つの数について、すべて正しく公約数を見つけられているか、確かめ合う。

自分で好きな数を2つ選んで、公約数をすべて見つけましょう。



(72と16)で、公約数を見つけました。
72の約数は、(1, 2, 3, 4, 6, 8, 9, 12, 18, 24, 36, 72)。
16の約数は、(1, 2, 4, 8, 16)。
だから、公約数は、(1, 2, 4, 8)。

すべて正しく公約数を見つけることができているでしょうか。



約数がたくさんあって見つけるのが大変だな。

小さい方の数より大きい約数は、公約数にはならないよね。



なるほど、小さい数の方の約数を見つけて、それが大きい数の約数になっているか確かめると簡単に見つけられるね。

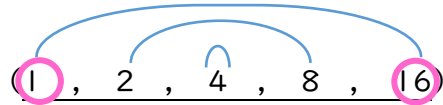


16の約数 (1, 2, 4, 8, 16)

約数を見つけないとき、対応する約数を見つけないと簡単にすべて正しく見つけられたよ。
16の約数を見つけないとき、まず $16 \div 1$ をして割り切れるから1が約数。それに対応する数16も約数になるよ。同じように考えていくと、すべての約数を簡単に見つけられたよ。



16の約数



発見があります!
(72と16)の公約数は、(1, 2, 4, 8)ですが、これは、最大公約数の(8)の約数になっています。

3, 6, 9, 12, 18, 24, 36, 72 1, 2, 4, 8 16



数の大きさや特徴に注目すると、すべて正しく公約数を見つけられるね。
3つの数の公約数も同じようにできそうだから、やってみたいな。

Point

多様な整数の組み合わせができるため、公約数を見出す手順について様々なパターンを学び合うことができます。また、「すべて正しく公約数を見つける」ことに焦点を当て、その考え方や答えでよいかを検証しながら学び合うことを通して、2つの整数の大きさや特徴に着目し、より簡潔にすべて正しく約数、公約数を見つけて出す方法を見出していくことができるようになります。